



JFRL 情報宅配

* 今月のトピックス *

[欧州 PPWR の「有害物質規制」が適用開始！規則の概要と当財団の分析対応]

欧州連合(EU)において、包装廃棄物の削減とリサイクル推進を目的とした「包装・包装廃棄物規則(PPWR)」が 2025 年 2 月に施行されました。本規則は EU 市場に流通するすべての包装材が対象となり、最終的には 2030 年から「すべての包装材がリサイクル可能であること」が義務付けられます。段階的に要件が適用されますが、直近では 2026 年 8 月 12 日より「有害物質の使用規制(第 5 条)」が適用開始となりました。今回は、この有害物質規制の概要とポイントについて解説いたします。

■有害物質の使用規制とは？

規制の対象となるのは、大きく分けて「PFAS 類(有機フッ素化合物)」と「重金属」の 2 つです。

★PFAS 類(有機フッ素化合物)の規制

- ・対象物質：すべての PFAS(1 万種類以上)
- ・対象製品：食品接触包装材(食品に直接・間接に触れる包装全般)
耐水・耐油性に優れ、環境中で分解されにくく、健康影響の懸念から厳しく制限されます。

★重金属 4 物質の規制

- ・対象物質：鉛、カドミウム、水銀、六価クロムの 4 物質
- ・対象製品：すべての包装材(包装全般)
包装または包装構成要素に含まれる上記 4 物質の合計濃度が制限されます。

対象物質	規制の基準値
PFAS 類 (有機フッ素化合物)	①ポリマーを含む PFAS の総量(フッ素として)：50 ppm 以下 ②PFAS の合計値：250 ppb 以下 ③個別の単一 PFAS：25 ppb 以下
重金属 4 物質	鉛、カドミウム、水銀、六価クロムの合計濃度：100 ppm 以下

PFAS は 1 万種類以上あるとされており、そのすべてを個別に分析することは現実的ではありません。そこで、欧州委員会のガイダンスでは下記の段階的なアプローチが推奨されています。

- ・ステップ 1：総フッ素が 50 ppm 未満である場合、適合しているとみなすことができます。
- ・ステップ 2：総フッ素が 50 ppm を超える場合、フッ素が有機由来(PFAS)か無機由来かを判別し、有機フッ素として 50 ppm 未満であれば適合と判断します。
- ・ステップ 3：必要に応じて個別・ターゲット分析を実施します。

■JFRL の分析サービスのご案内

★フッ素(総フッ素)

燃焼イオンクロマトグラフィー(CIC)を用い、定量下限 10 ppm の総フッ素量による PFAS スクリーニング評価が可能です。

★重金属 4 物質(鉛・カドミウム・水銀・クロム総量)

各成分量を測定し、ご報告いたします。

【対象試料】紙・段ボール、ガラス、陶器、プラスチック(PET, PE, PP 等)、金属、ゴム、インク等、各種包装材料の広範な分析に対応しております。



欧州へ製品を輸出されている企業の皆様、包装材の新しい規制への対応はお済みでしょうか。分析のご依頼や詳細につきましては、お気軽にお問い合わせください。

◎来月のトピックスは「微生物試験の海外規格について」を予定しております。

(トピックスは予告なく変更となる場合がございます。)

※行政情報※

* 農林水産省 * (<https://www.maff.go.jp/>)

1. [食品産業の海外展開に係る全国セミナーへの参加者を募集します] (2026年9月4日 輸出・国際局海外需要開拓グループ) https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu_kokusai/kaitaku/260904.html
2. [「アグリビジネス創出フェア 2026」開催!] (2026年9月8日 農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室) <https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/260908.html>
3. [令和7年度国産農畜水産物に含まれる有機フッ素化合物(PFAS)の実態調査や試験研究の結果について] (2026年9月11日 消費・安全局食品安全政策課) <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/seisaku/260911.html>
4. [フードテック官民協議会ビジネスコンテストのエントリー受付を開始します!] (2026年9月14日 新事業推進班、新事業企画班) <https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/kikaku/260914.html>

* 厚生労働省 * (<https://www.mhlw.go.jp/>)

1. [最近の海外における食中毒事例について(情報提供)] (2026年9月2日 厚生労働省 健康・生活衛生局食品監視安全課) <https://www.mhlw.go.jp/content/001744919.pdf>
2. [令和7年度における「輸入食品監視指導計画に基づく監視指導結果」及び「輸入食品監視統計」の公表(2026年8月28日健康・生活衛生局) https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_75846.html
3. [第125回 コーデックス連絡協議会(10月6日開催案内)] (2026年9月15日 健康・生活衛生局) https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_76212.html ※傍聴申込締切 9月29日17時

* 消費者庁 * (<https://www.caa.go.jp/>)

1. [インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する改善指導について(令和8年4~6月)] (2026年9月4日 表示対策課ヘルスケア表示指導室) <https://www.caa.go.jp/notice/entry/047389/>
2. [食品、添加物等の規格基準の一部を改正する告示について] (2026年9月10日 消費者庁次長)(キノクラミン、クロルピリホス、スピロジクロフェン、スピロピジオン、プロパモカルブの残留基準値) https://www.caa.go.jp/policies/policy/standards_evaluation/pesticide_residues/notice/assets/standards_cms208_260910_01.pdf

* 農林水産消費安全技術センター * (<http://www.famic.go.jp/>)

1. [令和8年度 JAS オンラインセミナー「あなたのアイデアで、未来の JAS がはじまる」を更新しました。] (2026年9月1日 規格調査部規格調査課) https://www.famic.go.jp/syokuhin/jas/seminar_2026/

☆お知らせ☆

【全国各地で講演会を開催します】

- ▶ 東京：10月08日(木)／渋谷区文化総合センター大和田 伝承ホール ※残席わずか。お申込みはこちら。
基調講演「栄養成分表示制度及び日本版包装前面栄養表示ガイドラインについて」他 情報提供2講演
- ▶ 福岡：10月29日(木)／アクロス福岡 国際会議場 ※詳しくはこちら。
テーマ「海外向け栄養成分表示」「包装前面栄養表示」「おいしさに関わる食品の二次機能分析」
- ▶ 大阪：11月26日(木)／大阪産業創造館 ※近日中にご案内します
テーマ「機能性 R&D サポート」「食品の二次機能」

【第15回 技術成果発表会】の申し込みは10月20日迄です！

- 開催日：11月12日(木)
- 会場：渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール

【食品開発展 2026 に出展します】 ※個別面談、プレゼンのご案内はこちら。

- 開催日：10月14日～16日
- 会場：東京ビッグサイト 西ホール(ブース No. 2-386)

【日本食品衛生学会 第122回学術講演会】にてポスター発表します

- 開催日：10月22日～23日 ●会場：千里ライフサイエンスセンター
- 一般研究発表：P-03 はちみつの偽和物マーカースとしてのマンノースの分析法開発
- P-53 牛および鶏筋肉中のβ-作動薬5化合物の分析法開発と妥当性評価
- P-55 鶏筋肉中のニトロイミダゾール類7化合物の分析法開発と妥当性評価
- P-76 加工食品中ニトロソアミン類10種のLC-MS/MSによる一斉分析法の検討
- P-109 ナッツアレレルゲン及びピーナッツアレレルゲンのLC-MS/MSを用いた一斉分析法の検討

